

セキュリティの仕事に 資格はどのように影響するのか？

～ キャリアへの影響等や携わる業務への悩みや期待とは ～
(キャリアデザインWG調査報告)

情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）代表
持田啓司

2026/7/24





持田 啓司 (もちだ ひろし)

株式会社ラック
サイバー・グリッド・ジャパン



CYBER GRID JAPAN

専門分野

- 組織開発
- 人材育成・評価

業務内容

- セキュリティコンサルタント
(体制構築/人材育成/評価等)
- 業界団体の運営
- 政府系会議の委員
 - 総務省
 - 経済産業省
 - (独)情報処理推進機構(IPA)

業界団体活動

- 情報セキュリティ教育事業者連絡会 (ISEPA) 代表
- NPO 日本ネットワークセキュリティ協会
マーケティング部会 副会長
- サイバーセキュリティイニシアティブジャパン(CSIJ)
事務局長
- (社)ソフトウェア協会 人材委員会 副委員長
- (社)日本IT団体連盟 経済安保分科会 主査
- NPOスキル標準ユーザー協会 教育企画委員会 委員
- 人材育成学会 会員
- (社)日本ITストラテジスト協会 会員

ISEPA キャリアデザインWG 紹介



長期的な視野で
セキュリティ人材 ・ セキュリティの業務に関わる方々の
よりよいキャリア形成を目指す！

WG活動成果物タイトル	掲載日
セキュリティ人材の確保と育成	2025/5/28
学生のキャリア意識調査レポート2	2024/7/25
学生のキャリア意識調査レポート	2023/2/16
セキュリティ業務職種のキャリア展望について	2021/5/20
セキュリティ業務を担う人材のスキル可視化における概念検証報告書 ～トライアル結果の考察～	2019/11/25
キャリアパスグランドデザインの考察_ver1.0	2019/10/7
セキュリティ業務を担う人材の現状調査報告書（2018年下期調査）	2019/6/19
セキュリティ業務を担う人材の現状調査報告書（2018年上期調査）	2018/11/2

ISEPA 成果物(<https://www.jnsa.org/isepa/outputs/>)で公開中！

本日発表する内容



- 2025年度において、
『情報セキュリティ分野に従事されている方の、
資格取得・保有状況、キャリア形成、資格取得時の課題
やご意見を幅広く把握し、
今後の人材育成施策やキャリアパス設計、資格取得に向
けた支援のあり方を検討する』ことを目的として
調査・分析活動を行なった。

一般的に仕事をするためには能力を高める
必要があり、資格取得が一つの手段となる。

しかし！

資格は本当に仕事に活かしているのか？

資格を持っている方が能力が高いのか？

一般的に言われる資格取得のメリット



- 資格の取得は、客観的なスキルの証明により、キャリアの選択肢が広がる。
 - キャリア・仕事におけるメリット
 - 就職・転職の有利化
 - 昇給・昇進のチャンス
 - 業務独占による安定
 - 個人・スキル面におけるメリット
 - 体系的な知識の習得
 - 自分への自信と評価
 - 人脈やコミュニティ

一般的に言われる資格と仕事のギャップ

- しかし「資格があっても仕事ができない」と言われる
- この最大の理由は、知識と実務能力のギャップ
 - 試験で得る知識はあくまで「インプット」であり、現場で成果を出す「アウトプット」とは異なる。
 - なぜ「仕事ができない」と言われてしまうのか
 - マニュアル外の対応力不足
 - 対人スキルの不足
 - 手段の目的化
 - 資格を「本当に使える武器」にするための対策
 - 実務でのアウトプットを意識する
 - ポータブルスキルも同時に磨く
 - 資格を「足がかり」と捉える

■ 調査目的

以上の仮説を前提として、**情報セキュリティ分野に従事されている皆様の資格取得・保有状況、キャリア形成、資格取得時の課題やご意見を幅広く把握し、今後の人材育成施策やキャリアパス設計、資格取得に向けた支援のあり方を検討するため**に実施する。

調査にあたっては、以下の観点を重視する。

- セキュリティ業務経験や資格取得・保有がキャリアや業務に与える影響の実態把握
- 資格取得の動機や障壁、取得後の効果 ・ 課題の明確化
- 年代 ・ 職位 ・ 地域 ・ 職種ごとの傾向や特徴の分析
- 今後の人材育成やリスキリング施策への示唆の抽出

■ 調査概要

- 調査時期：2025年12月19日～12月22日
- 調査人数：1000人
- 調査方法：調査会社にてアンケートを実施
- 対象者：全国のセキュリティ関連業務従事者

調査項目は以下の通り

- 回答者の基本属性（性別、年齢、職業、経験年数など）
- 資格保有状況（IT ・ セキュリティ資格の種類、取得時期、組み合わせ）
- 資格取得の理由や取得後の変化 ・ 効果
- 資格未取得理由や取得に対する不安 ・ 障壁
- 自由記述によるキャリアや業務への影響、課題 ・ 要望

対象とした資格

■ 対象資格

本調査では、選択肢形式で20の資格、その他の資格はフリー記述で収集。

選択肢の20の資格は、日本国内のIT ・ セキュリティ分野において実務的な重要性和認知度が高く、かつ多様なキャリアパスや専門性を考慮し選定した。選定は以下の要素を考慮。

- 1. 業界標準 ・ 国家資格
- 2. 実務直結 ・ 専門性の高い資格
- 3. 国際資格 ・ グローバル人材への対応

■ 分析手法

収集したアンケートのデータを以下の手法で分析した。

1. クロス集計による傾向把握
2. 自由記述のテーマ分類 ・ キーワード抽出
3. 組み合わせ ・ 時系列分析

■ 言葉の定義について

本レポートでは、取得と保有という言葉を使い説明を行なっており、それぞれの言葉の使い分けは、以下の定義による。

取得

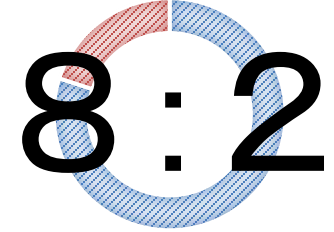
1. 資格を取得した一次点を表す
2. 資格を取得するという行動を表す

保有

1. 実年齢において資格を保持していることを表す

回答者の傾向

男性・女性比率



平均年齢

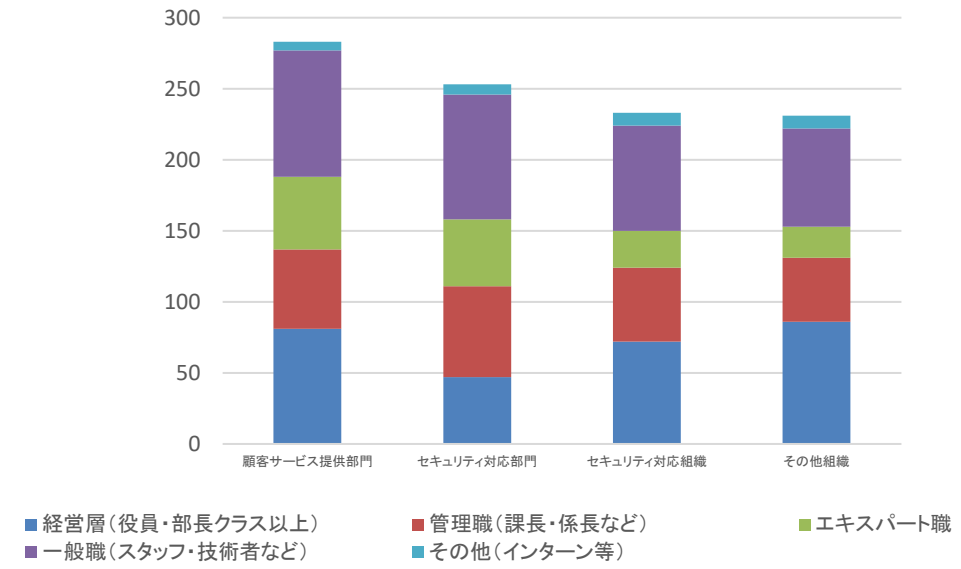


- 20歳から69歳まで幅広い年齢層から回答
- セキュリティ業務経験は1年未満から21年以上までバランスよく、多様なバックグラウンドを持つ人材が調査対象

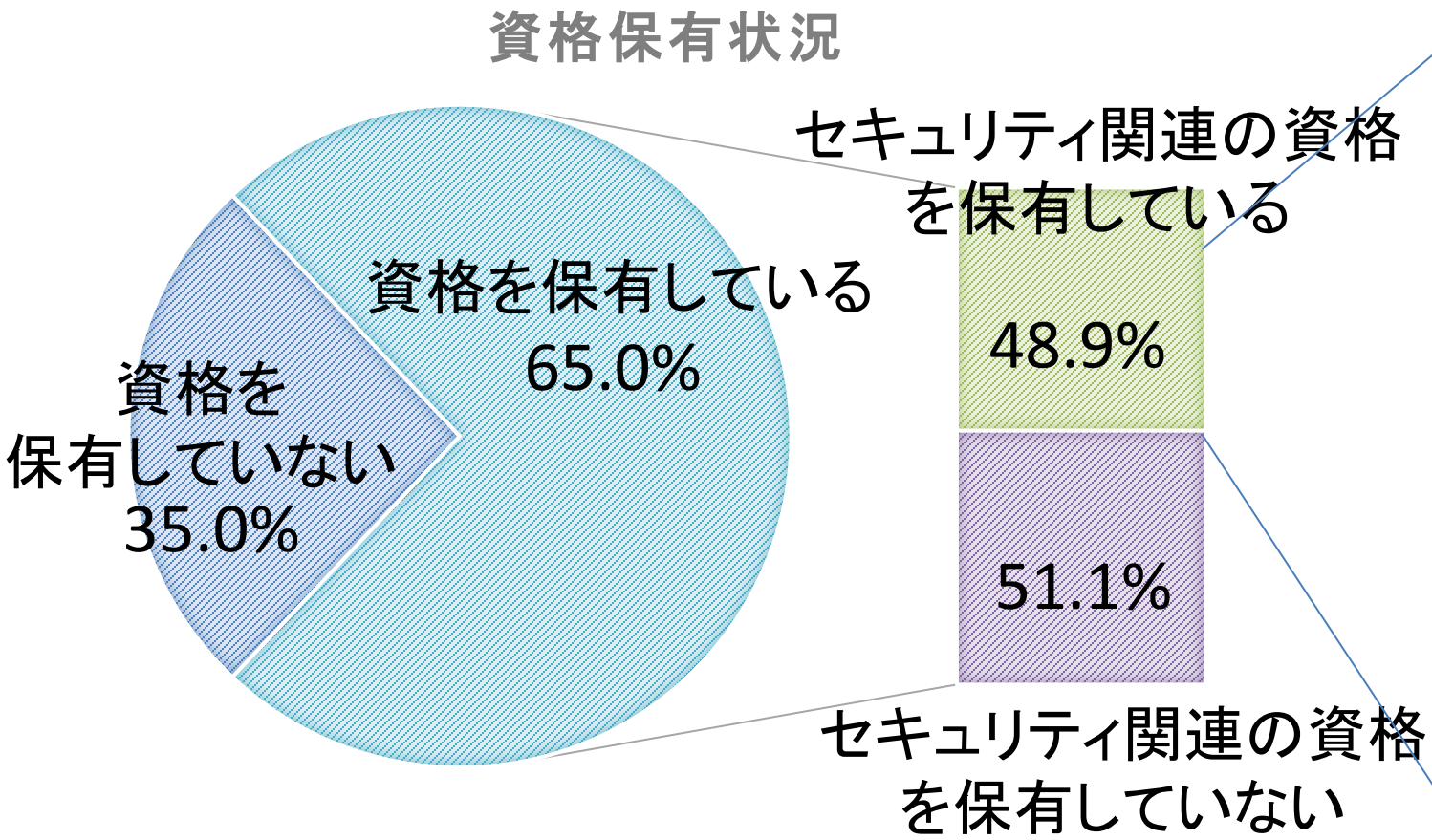
年代別業務経験年数



職位別所属部門



資格保有情報



資格名	保有者数	割合(%)
情報セキュリティマネジメント	132	41.5
基本情報技術者試験	125	39.3
応用情報技術者試験	76	23.9
情報セキュリティ管理士	76	23.9
脆弱性診断士	47	14.8
AWS認定セキュリティ	42	13.2
情報処理安全確保支援士	43	13.5
IT監査人	33	10.4
CISSP	25	7.9
CISM	14	4.4
CISA	18	5.7
CEH	13	4.1
CND	16	5
CompTIA Security+	11	3.5
CompTIA CySA+	13	4.1
CompTIA CASP+	8	2.5
GIAC	9	2.8
Cisco Certified CyberOps Associate	10	3.1
Microsoft (SC-900)	24	7.5
LPI Security Essentials	8	2.5
その他	23	7.2

- なんらかの資格を保有している650名のうち、セキュリティの資格を保有している人は**318人**
- この中には、複数資格を保有している人も存在する(資格保有者の実態はこの318名を中心に分析を実施)

各資格の取得時期別ヒートマップ



		取得時期					
		10代	20代	30代	40代	50代	60代
資格名	基本情報技術者試験	7	65	33	16	4	0
	応用情報技術者試験	8	39	18	9	2	0
	脆弱性診断士	3	23	11	9	1	0
	情報セキュリティマネジメント	6	35	47	34	10	0
	情報処理安全確保支援士	1	11	18	11	2	0
	情報セキュリティ管理士	3	24	31	13	5	0
	IT監査人	0	12	16	4	1	0
	CISSP	4	7	8	3	2	1
	CISM	1	7	2	3	1	0
	CISA	0	6	7	5	0	0
	CEH	1	4	6	1	1	0
	CND	0	7	7	1	1	0
	CompTIA Security+	1	1	7	2	0	0
	CompTIA CySA+	2	5	5	1	0	0
	CompTIA CASP+	2	0	5	0	1	0
	GIAC	1	3	5	0	0	0
	Cisco CyberOps	1	1	6	1	1	0
	AWS認定セキュリティ	1	14	18	8	1	0
	Microsoft SC-900	2	7	12	2	1	0
	LPI Security Essentials	1	1	4	1	1	0

- 基本的な資格は20代が多く、30代・40代となると実務的な資格の取得が目立つ
- 学生のうちに取得した方もいるため、10代での取得という回答も目立つ
- 各資格はどの世代が取得する傾向にあるのかを可視化
- 背景が濃い色が各世代で取得している資格が多いもの

所属部門別の資格取得傾向

所属部門／保有状況	保有	未保有
顧客サービス提供部門（事業部門）	127	84
自社内セキュリティ対応部門（独立部門・チーム）	116	61
自社内セキュリティ対応組織（横断型組織、兼務）	64	80
その他組織	11	107

部門	顧客サービス提供部門 （事業部門）	自社内セキュリティ対応部門 （独立部門・チーム）
1位	基本情報技術者試験（60）	情報セキュリティマネジメント（52）
2位	情報セキュリティマネジメント（46）	基本情報技術者試験（32）
3位	応用情報技術者試験（33）	情報セキュリティ管理士（29）
4位	情報セキュリティ管理士（28）	応用情報技術者試験（23）
5位	脆弱性診断士（20）	脆弱性診断士（21）
部門	自社内セキュリティ対応組織 （横断型・兼務）	その他組織
1位	基本情報技術者試験（32）	その他／該当なし（5）
2位	情報セキュリティマネジメント（32）	IT監査人（2）
3位	応用情報技術者試験（19）	情報セキュリティマネジメント（2）
4位	情報セキュリティ管理士（18）	基本情報技術者試験（1）
5位	AWS認定セキュリティ（12）	応用情報技術者試験（1）

- 資格取得は、部門における業務内容、専門性の要求度、評価制度、役割の明確さといった**組織的要因に強く左右**
- 特に、**専門部門**では資格が「前提条件」や「信頼性の担保」として機能する一方、**兼務組織**や周辺部門では資格取得の優先度が下がりやすい傾向
- 資格取得促進には、部門特性に応じて、資格の位置づけや活用方法を明確にし、専門部門とそれ以外の部門で**異なる支援策や期待役割を設計**することが重要

資格の組み合わせ

複数資格保有者の人数

項目	人数 (人)
セキュリティ関連の資格を保有	318
（内訳）複数保有者	170
（内訳）一つ保有者	148
セキュリティ関連以外の資格を保有	332
全く保有していない	350

- 資格保有者の約半数は複数の資格を保有
- 基礎的な資格から実務に即した資格へと進んでいくことが多い

保有者別 資格の組み合わせ

順位	資格の組み合わせ	保有数 (人)
1	情報セキュリティマネジメント + 基本情報技術者	36
2	AWS認定セキュリティ + 情報セキュリティマネジメント	24
3	情報セキュリティマネジメント + 情報セキュリティ管理士	19
4	情報セキュリティマネジメント + 応用情報技術者	17
5	情報セキュリティ管理士 + 基本情報技術者	16
6	情報セキュリティマネジメント + 情報セキュリティ管理士 + 基本情報技術者	15
7	AWS認定セキュリティ + 基本情報技術者	14
8	CISSP + 情報セキュリティマネジメント	14
9	情報セキュリティマネジメント + 情報処理安全確保支援士	13
10	AWS認定セキュリティ + CISSP	12

資格取得理由

資格取得理由

取得理由	回答数 (人)	割合 (%)
キャリアアップ	151	47.5
業務をするうえで優位 と思った	126	39.6
業務命令で取得	84	26.4
転職で優位と考えた	63	19.8
上司・同僚の勧め	59	18.6
給与アップにつながる	56	17.6
自己研鑽	51	16
その他	2	0.6

業務環境が変わったタイミングや、年代や役職が上がったタイミングなどにより、資格取得の理由も大きく変化する。

資格取得の傾向

- 「キャリアアップ」「業務上有利」は全年代で多いが、特に20～40代が多い
- 「業務命令」「上司・同僚の勧め」「給与アップ」も若年層～中堅層が多い
- 「自己研鑽」は全年代で一定数見られ、50代・60代では相対的に比率が高まる
- 「転職で優位」「その他」は全体的に少数派

資格取得による効果

フリー記述より抜粋

- 客観的指標および業務遂行能力の向上による **信頼性の向上**
 - 「社内外で信頼されるようになった」「顧客から信頼された」
 - 「知識が増え、問題解決が早くなった」「現場で使える知識が増えた」
 - 管理職やエキスパート層では「責任ある仕事を任されるようになった」「部下や顧客から信頼されるようになった」
- 共通した知識基盤の獲得による **コミュニケーションの円滑化**
 - 「専門用語が理解できるようになり会議についていける」「顧客や同僚との会話がしやすくなった」「他部門との連携がスムーズになった」
- 自己成長 ・ 自己満足 ・ **モチベーション向上**
 - 「自己研鑽のため」「新しいことに挑戦する意欲が湧いた」

資格を取得したことにより良い効果を感じている。

コミュニケーションが円滑になり、業務での成果（課題解決や効率化）につながり信頼されることで、良い循環につながっている。

資格の複数保有の効果

資格の複数保有の効果

「資格取得後の変化を感じた」		
グループ	人数	割合(%)
複数資格保有者	140	82
単一資格保有者	100	68
「資格の効果を感じた(非常に/ある程度)」		
グループ	人数	割合(%)
複数資格保有者	157	92
単一資格保有者	124	84
「資格が非常に役に立った」		
グループ	人数	割合(%)
複数資格保有者	70	41
単一資格保有者	51	35
「資格があまり/全く役に立っていない」		
グループ	人数	割合(%)
複数資格保有者	13	8
単一資格保有者	24	16

複数資格を取得したことによる効果

- 複数資格を持つことでより効果を感じやすくなる傾向
- 複数の資格を保有する相乗効果が資格取得効果をより実感する結果

資格保有者の意見の比較（抜粋）

複数資格保有者 ⇒ ポジティブな記述が多い

- 「キャリアアップや昇進に直結した」
- 「複数資格の組み合わせで専門性や市場価値が高まった」
- 「資格取得が次の挑戦の原動力になった」

単一資格保有者 ⇒ ポジティブな記述もあるが、やや限定的

- 「実務で使う機会が少ない」
- 「次の資格取得へのモチベーションが続かない」
- 「一つだけではキャリアの幅が広がりにくい」

キャリアを広げる資格取得へ

その他資格の一覧

資格名	取得年代(例)	人数(記載数)
危険物取扱者	20代	3
消防設備士	20代	2
衛生管理者	30代	2
日商簿記2級・3級	20代、30代	4
社会保険労務士	30代	1
宅建	30代、40代	3
JQA内部監査者	30代	1
情報活用試験1級	30代	1
電気工事士	30代、50代	2
ISO27000ファウンデーション	40代	1
内部監査士	50代	1
診療情報管理士	30代	1
中小企業診断士	40代	1
MBA	30代、40代	2
教員免許	20代	2
行政書士	30代、40代	2
技術士	40代	1
ビル管理士	40代	1
アマチュア無線	30代	1

セキュリティ担当者

- 守る対象を理解することは重要
- セキュリティ以外の興味関心・資格の取得などでキャリアを広げる効果に期待
- セキュリティ以外の資格を取得し保有している人はより多くの効果を感じている

代表的な記述例（抜粋）

- 「衛生管理者を取得し、職場の安全衛生管理に役立てている」
- 「日商簿記2級を取得し、経理や財務の業務に活かしている」
- 「社会保険労務士の資格で、労務管理や手続きが自分で行えるようになった」
- 「宅建を取得し、不動産関連の業務に従事」
- 「JQA内部監査者（30代）として品質管理に携わる」
- 「行政書士で役所への提出書類が作成できる」
- 「技術士で品質確保に貢献」
- 「ビル管理士でビルメンテナンス業界で有利」

資格未取得者の取得しない理由

未取得理由

理由	回答数（人）	割合（％）
業務に必要性を感じない	112	34.1
時間的余裕がない	63	19.2
費用面の負担が大きい	35	10.7
難易度が高いと感じる	43	13.1
企業からの評価・推奨・褒賞等が無い	28	8.5
興味がない	47	14.3
その他	0	0

未取得の理由には

- 「資格取得で得られる効果を別の方法で享受している」
- 「資格取得に向く環境ではない」
の2つに分けられる。

OJTや経験が重視される場合や、難易度・会社補助制度・時間的余裕など環境面も大きく関わってくることが要因と考えられる。

資格未取得者の傾向

従事年数\世代	20代	30代	40代	50代	60代
1 年未満	3	6	0	2	1
1 ～ 3 年	10	13	14	8	11
4 ～ 6 年	8	14	17	14	11
7 ～ 1 0 年	3	14	23	16	12
1 1 ～ 1 5 年	3	9	12	14	10
1 6 ～ 2 0 年	0	3	6	6	4
2 1 年以上	0	1	9	28	45

- 60代の「21年以上」の長期従事層が多い
 - 資格制度が十分に整備される以前から実務経験を積み重ねてきた層と考えられる
- 資格未取得者の分布は二極化
 - キャリア初期段階
 - 今後のキャリア形成次第で資格取得へ移行する可能性
 - 実務経験重視の中堅・ベテラン層
 - 資格取得の動機づけや必要性の再定義が課題

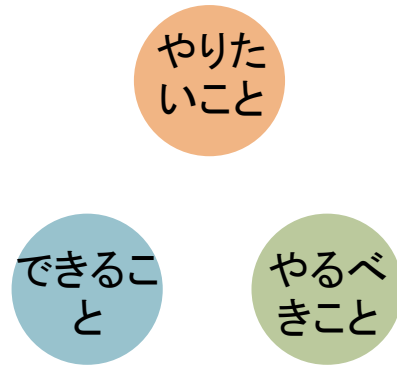
個人での取り組み



- 資格取得者
 - 資格で得た知識や視点を、日常業務に意識的に活かすことで、具体的な成果として現れる
 - 自身の**業務内容と資格知識との関係**を整理し関係者に伝えることで、資格が組織内での役割認識や信頼形成に寄与する可能性が高まる
- 資格未取得者や取得を迷っている層
 - 資格との向き合い方を主体的に考えることは重要
 - 資格の意味を早い段階で意識することが有益で、資格を含め自身の**キャリアを中長期的に捉える**視点が求められる。
- 個人に求められる取り組み
 - 資格取得を目的化するのではなく、自身の**キャリアと業務に資格を位置づけ**、取得後も**能動的に活用していく**姿勢を持つこと
 - 資格を「取得するか否か」ではなく、「どのように活かすか」という視点で捉えることが、変化の大きいセキュリティ分野において、持続的なキャリア形成につながると考えられる

資格取得から自己実現へ

STEP1:初期段階



基礎資格の取得

基礎的な資格取得で体系だった学習と『**できること**』が増える効果が期待できる

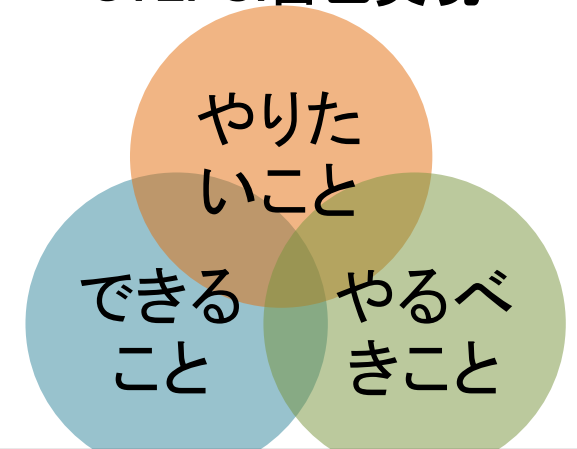
STEP2:成長段階



複数資格・実務経験

関連資格の取得でスキルの幅が広がる。
『**できること**』が増えることで、
『**やりたいこと**』に手が届き始める

STEP3:自己実現



理想的なキャリア状態

高度な専門性が確立。
『**やるべきこと**』と『**やりたいこと**』が一致し、
それを実現する能力が備わった状態

『**できること (Can)**』を資格取得により体系的に広げ、
『**やるべきこと (Must)**』の質を高め、
『**やりたいこと (Will)**』の実現を加速させる

組織・企業での取り組み



- 組織・企業側が資格の位置づけを明確にし、人材育成や評価の仕組みに組み込んでいく姿勢が不可欠
 - 専門部門は資格保有者が多いが、兼務部門や周辺部門では未保有者が多い傾向
 - 業務内容や役割に応じ、資格がどのような知識・スキルの目安となるか整理し共通認識として提示
 - 資格取得を促すための現実的な支援環境の整備も不可欠
 - 個人の負担軽減の仕組みで、「個人の自己投資」から「組織的な育成施策」へ位置づけを変える
 - 資格取得後の活用と評価の仕組み
 - 資格を業務アサインや役割拡大などと結びつけることで、キャリア上の意味を持つようになる
 - 実務経験と保有資格をどう活かしているかに注目し、多様なキャリアを持つ人材の強みを引き出す
 - 組織・企業側に求められる取り組み
 - 資格取得を個人任せにせず、資格を軸とした人材育成・評価・配置の循環を設計する
 - 資格が業務経験と結びつき、キャリアの中で意味を持つ環境を整えることで、個人の主体的な成長と組織全体の専門性向上を同時に実現できる

資格取得に向けた総合的な体制



実務

実務との連動・現場活用

制度・配慮

モチベーション向上・
評価制度

年代・ライフステージ別
の配慮

支援・サポート

学習時間・費用の
サポート

学習コミュニティ・
ピアサポート

情報提供・キャリア
支援

- 資格取得は業務効率化や高い成果を生み出す1つの手段
- 取得者はその効果を実感している
- 未取得者の外的要因を解消させ、取得促進の取り組みを行うことは、企業側にも有益になる可能性が見えた

まとめ

- 資格は単なる知識証明やスキルの有無を示すものではなく、キャリアの各段階において異なる意味と価値を持つ、**多面的な存在**
 - 資格取得の意義
 - 若年層や学生：学習の指針や将来像を描くための入口
 - 中堅層：専門性の強化や役割拡張を支える手段
 - ベテラン層：経験の体系化や知見の再確認、組織への貢献を裏付ける要素
- 資格が有効に**機能していない場合**の対応
 - 個人においては「したい事（Will）」 「できる事（Can）」 「やるべき事（Must）」 という自己実現の観点から、資格取得はより高い納得感を持った**キャリア形成**ができる
 - 組織において資格を有効に働かすには、資格取得に対して**制度設計や支援**が重要

活動メンバー募集中



- 情報セキュリティ教育事業者連絡会（ ISEPA ）では、以下の人材に関する調査や分析を行っています。
 - セキュリティ業務の役割検討や総合的適職認定
 - セキュリティ人材に関する現状調査やキャリアパスの検討
- JNSA会員であれば活動に参加できますので、ご興味ある方は事務局まで、ご連絡ください。
- 事務局メールアドレス： sec@jnsa.org

